

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル 7F

TEL: 0466-26-3028 FAX: 0466-27-5091

E-mail: jdg@jcom.home.ne.jp http://jdg-shonan.ciao.jp/

新年のご挨拶

会長 松野 義明

皆様、明けましておめでとうございます。本年も皆様にとりましてよい年であることを心から祈念いたします。

昨年は、物理学分野で梶田 隆昌氏、生理学・医学分野で大村 智氏のノーベル賞受賞など嬉しいニュースもたくさんあった一方で、日本では火山の噴火や豪雨による洪水や河川の氾濫などの気候変動に起因すると考えられる自然災害が数多く起こり、多くの人々の尊い命やかけがえのない生活基盤が失われました。

中近東では政情不安定状態が続く、ヨーロッパ諸国はテロ対策に頭を痛め、特に、ドイツは内戦が続くシリアからの膨大な数の難民の受け入れという未曾有の大問題に毅然として立ち向かっています。今年以降もその問題解決の厳しさは増大していくことでしょう。

気候変動と国際紛争はもちろん相互関係のない現象ですが、人間の英知を絞って抑え込まなければならない問題という点では共通しているように思います。

気候変動を抑え込むためのキーワードは「温室効果ガスの放出制限」です。これは、多少時間がかかるかもしれませんが、テクノロジーの進歩で理論的には解決可能です。

では、国際紛争を抑え込むためのキーワードは何でしょう。私は、残念ながら、今のところ、「ない」と考えています。つまり、「世界中の国々の間に、ある条件が整えば平和を保てる」という時の「条件」は一言で言える形では存在しないということです。現在ドイツが直面している難民受け入れ問題はその「条件」の一つを見つけ出す糸口になるのかもしれませんが。日本にも今のドイツと同様難民受け入れ問題に直面せざるを得ない事態が来ないとも限りません。今こそドイツの難民政策の底を流れる基本思想に学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

新入会員

敬称略

青山裕三

湘南日独協会の行事予定

■ Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第35回

日時 1月17日(日) 15:00~16:30

テーマ: Küchenlieder

- Mariechen sass weinend im Garten
- Müde kehrt ein Wandersmann zurück
- Im grünen Wald • Waldeslust

会場: 藤沢商工会館ミナパーク 5F 506号室

会費: ¥1,000

■ 自衛艦見学会 (受付締め切り)

日時 1月24日(日) 12時 JR横須賀駅改札出口集合

写真撮影は自由、終了後昼食懇親会開催

事情で参加を取り消しされる場合は1月20日迄に担当

の勝亦理事(045-335-0334)へ連絡下さい。

以後の取り消しにはキャンセル料が発生します。

■ Schwatzerei am Stammtisch 第16回

日時 1月26(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会館ミナパーク 会費 1,000円

■ 年次総会

日時 1月31日(日) 13:00~14:00

場所 湘南アカデミア (江ノ電第2ビル 7F)

■ 1月例会 映画会

日時 1月31日(日) 年次総会終了後

「未完成交響楽」1935年公開の、ドイツ・オーストリア作
ロマンティックな楽聖シューベルトの伝記映画

解説: 西澤英男氏 (昨秋、鎌倉のドイツ映画週間での作品の解説しています)

場所 総会と同じ 湘南アカデミア

■ Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第36回

日時 2月14日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会館ミナパーク 会費 1,000円

■ Schwatzerei am Stammtisch 第17回

日時 2月23(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会館ミナパーク 会費 1,000円

■2月例会 講演会

「ヨーロッパ有数の緑化地帯となった

旧東西ドイツ「国境地帯」～冷戦時代の跡地に

垣間見る自然を愛するドイツ人の心～

講師 相原恭子氏

舞台をヨーロッパに置いて現在活躍中の作家・写真家

ドイツを中心とする紀行書多数

日時 2月28日(日)14:30～16:00

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

終了後懇親会を予定しています

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第37回

日時 3月20日(日) 15:00～16:30

場所 藤沢商工会館ミナパーク 5F 506号室

会費:1,000円

■Schwatzerei am Stammtisch 第18回

日時 3月29(火) 15:00～17:00

会場 藤沢商工会館ミナパーク 会費 1,000円

■3月例会 講演会

「日本料理の心と技術」(仮題)

講師 近藤元人氏 (創作和料理「近藤」店主)

鎌倉雪の下のお店のみならず、テレビ等でも活躍される著名な料理人です。

日時 3月27日(日) 14:30～16:30

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

☆ 予告 ☆

4月以降の行事予定は3月号に掲載します。Singen wir zusammen! Schwatzerei am Stammtisch は引き続きテーマを変えて毎月開催予定です。4月には昨年参加した、箱根のケンペル・パーニー祭への参加を検討しています。例会は4月24日(日)また5月の例会は29日(日)に開催予定で内容を検討中です。

6月例会26日(日)には会員松野美智子氏(ヴァイオリニスト)をお迎えしてお話と演奏、7月例会31日(日)には、吉川リサ氏講演会を予定しています。氏はニューヨーク州のホバート・アンド・ウィリアムズ大学(現ウィリアムズ大学)の歴史学科・アジア言語&文化学科で准教授(現在1年間のサバティカルで帰国中、湘南日独協会ドイツ語講座受講生です)。日本のオオサンショウウオに関するシーボルトの研究を題材として仕事を進めておられます。仮題は「シーボルトと大山椒魚」です。

10月例会講演

「第2次世界大戦終結から70年/その歴史的意味と今日に及ぶドイツへの影響」を聴講して



秋山氏と Bahrke 氏

会員 秋山友一

10月25日に開催されました例会で第2次世界大戦終結から70年をテーマに関西外国語大学等でドイツ語の講師をされている Ludwig Bahrke 氏に講演をして頂きました。

氏は横須賀市にありますが「ABCドイツ語サークル」の講師も務められていまして、私もそこで8年前よりドイツ語を学ばせて頂いております。いわば師弟の間柄であります。サークル以外では親友として交際させて頂いております。拙宅にお越し頂いたときはドイツ語と日本語で様々な話題について夜が更けるのも厭わずいつまでも続く会話を堪能しております。氏の歴史、国際情勢や言語に対する知識は深く、常に慧眼に感服致しております。



講演の内容としましては大戦前夜から戦争終結に至るまでの流れについて、ヨーロッパの各地に配置されたドイツ軍部隊の降伏の状況や現在のド

イツ連邦共和国に及ぼす影響など多岐にわたり大変分かりやすく解説して頂きました。特に興味をひかれたのが、第一次大戦終結時の状況と第二次大戦のそれとは全く様相を異にするものであったことです。1945年5月のドイツは灰燼に帰し首都ベルリンまでも瓦礫の山となっていた状況でした。それに比べ第一次大戦終結時のドイツの戦後の状況はそれほど酷いものではなく一部の地域を除きドイツ本土が蹂躪されることはなかったということでした。ここに近代戦、総力戦の恐ろしさを垣間見た気がしました。第二次世界大戦は大きく分けて太平洋地域と欧州戦域に分かれています。太平洋戦争のみを考えるとこの戦争の一部しか知ることができません。欧州戦争、そしてその原因となった事柄をたどっていかねば完全に理解することは不可能です。歴史とは偏らず、複眼的そして公平な目で学ぶことが重要なのではないのでしょうか。今回の講演を聴かせて頂きその思いを強くすることができました。

氏の平和に対する想いは深くこの講演もそれに満ちたものであったと思います。最後に講演の始めに紹介していただいたドイツ連邦共和国基本法第一条の一部を引用させていただきます。

Die Würde des Menschen ist unantastbar. Sie zu achten und zu schützen ist Verpflichtung aller staatlichen Gewalt.

(人間の尊厳は不可侵である。これを尊重し、および保護することは、すべての国家権力の義務である。)

Das Deutsche Volk bekennt sich darum zu unverletzlichen und unveräußerlichen Menschenrechten als Grundlage jeder menschlichen Gemeinschaft, des Friedens und der Gerechtigkeit in der Welt.

(ドイツ国民は、それゆえに、侵すことのできない、かつ譲り渡すことのできない人権を、世界のあらゆる人間社会、平和および正義の基礎として認める。)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2015 年望年会開催

12 月 13 日(日)午後 2 時より第 1 部湘南アカデミアで「三角ヴァイオリンの演奏とドイツ菓子とお茶をたのしむ会」、その後第 2 部は近くのダイニング・バー Divo で「美味しい料理とお酒で語りましょう!」が開かれまし



鎌倉・藤沢の国際交流フェストでも人気のアルペン音楽を演奏する鬼久保洋治氏が新たに取り組んでいる三角ヴァイオリンについての話と演奏を披露。



ヴァイオリンの原型とも言われチロルの古楽器、現在は演奏されることは多くないようです。曲目は「チロルの子守唄」「雪のワルツ」「野バラ」「浜辺の歌」等。お茶はアフリカ出張の多い、昔農理事から珍しいお茶が提供され、お菓子はドイツの製菓マイスターの資の「マルガレーテン (マジパンペースのしっとりとした焼き菓子)」「シュトレーレン (ドイツの代表的なクリスマス菓子)」をいただき午後のひと時を楽しみまし



た。その後、場所を変えて夜の雰囲気、ダイニング・バーを借り切った「食べ・飲み・歌い・語る」時間



介があり、今後の活動を語り、クリスマスの歌を合唱し、今年の活動の締めくくりとなりました。

11 月例会

日本とは何だろうかー日本民族学の 20 世紀

ヨーゼフ・クライナー教授講演会

会員 寺澤行忠



寺澤氏と Kreiner 氏

2015 年 11 月 29 日に湘南アカデミアにて、標記のテーマでドイツにおける日本学の泰斗、ボン大学名誉教授ヨーゼフ・クライナー博士の日本語による講演会が行われた。

民族学は、民族文化の特質を歴史的に、または他文化との比較によって研究する学問で、近年は一般に文化人類学と呼ばれている。

その民族学が日本を研究対象とする時、日本民族や日本文化はどこから来たのか、どのように形成されたのか、どのような構造を持っているのか、といった日本人あるいは日本民族のアイデンティティーが中心的なテーマに据えられることになる。

日本における民族学研究は 20 世紀に入って本格的な進展をみた。講演では日本で最初に人類学の現地調査を海外で行った鳥居龍蔵、ウィーン大学に学び、日本民族学の草分け的存在であった岡正雄、自国の伝承文化に研究の力点を置く、日本民俗学の開拓者柳田国男、日本民族学会を設立した渋谷敬三、「騎馬民族国家」の江上波夫、「文明の生態史観」の梅棹忠夫、「照葉樹林文化」「日本文化の多様性」の佐々木高明などをはじめ、日本民族学を牽引した人々の学問的業績について、日本民族学の展開に沿って懇切なご説明をいただいた。沖縄、奄美、南九州、アイヌなどの実地調査から日本各地へ研究のフィールドを広げていった、ドイツ、ヨーロッパにおける日本研究の第一人者による明晰なご講演で、われわれ一般人にもよく理解できるものであった。自民族や自国文化の本質は、外からの方がかえってよく見えるということもあるのである。

ヨーゼフ・クライナー教授は、1940 年にオーストリアのウィーンに生まれ、ウィーン大学で民族学、日本文化を専攻、東京大学東洋文化研究所へ留学され、ウィーン大学で博士号と教授資格を取得された。1971 年にウィーン大学教授、同日本文化研究所長、1977 年に



ボン大学教授、同日本文化研究所長に就任、1988年より東京のドイツ・日本研究所の初代所長を8年間務められた。その後法政大学に特任教授として招かれ、現在も同大学を拠点に旺盛な研究活動を続けておられる。2015年には海外の若手日本研究者を対象とする*ヨーゼフ・クライナー博士記念日本学賞が法政大学に設けられ、この程その第一回の記念賞がイタリア・フォスカリ大学の沖縄研究者、ティネッロ・マルコ氏に贈られた。

1974年から79年までヨーロッパ日本研究協会(EAS)の会長を務め、1990年にはヨーロッパ学士院会員となった。1996年にドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章、1997年にオーストリア共和国科学芸術功労一字章一等等級を受賞された。日本でも1995年に大阪府山片蟠桃賞、2004年に国際交流基金賞を受賞、また2006年には日本政府によって旭日中綬章を授与されるなど、各方面より顕彰されている。

著作も多数に上り、欧文の業績も多いが、日本語による刊行物だけでも、『日本民族学の現在：1980年代から90年代へ』(編著、1996年、新曜社)、『ケンペルのみた日本』(編著、1996年、日本放送出版協会、「NHKブックス」762)、『地域性からみた日本：多元的理解のために』(編著、1996年、新曜社)、『黄昏のトクガワ・ジャパン：シーボルト父子の見た日本』(編著、1998年、日本放送出版協会、「NHKブックス」842)、『江戸・東京の中のドイツ』(安藤勉訳、2003年、講談社、「講談社学術文庫」1629)、『近代<日本意識>の成立：民俗学・民族学の貢献』(編著、2012年、東京堂出版)、『日本民族学の戦前と戦後：岡正雄と日本民族学の草分け』(編著、2013年、東京堂出版)、『日本とはなにか：日本民族学の二〇世紀』(編著、2014年、東京堂出版)など枚挙にいとまがない。英文の“Japanese Collections in European Museums”(「ヨーロッパの博物館・美術館所蔵の日本関係コレクション」2巻、編著、2005年、ボン)も、ヨーロッパの主要博物館、美術館が所蔵する日本の美術品、工芸品などを丹念に調査されたもので、画期的な業績である。

わが湘南日独協会の松野義明会長は、若き日、ウィーンに留学された折に、ヨーゼフ・クライナー氏ご一家と縁を結ばれ、学問を語り合いながらよくウィーンの森を散策されたという。そしてクライナー氏が東京に留学した際には、松野家に下宿して勉学に励まれたということである。今回の講演会も、そのような両氏の不思議な縁の巡りあわせによって実現したものである。(了)

ふじさわ国際交流フェスティバル2015年参加



11月8日(日)藤沢駅北口サンパール広場で開催され、湘南日独協会はブースを設置、活動の紹介とドイツビールとプレッツェルの販売をしました。お手伝いの皆さんのおかげで完売、左の写真のように留学生の訪問もあり、ダンケシェーンの演奏もありました

編集後記

○10月、11月の例会は日本語によるドイツとオーストリア出身者の講演が続きました。お二人共に実に日本語が上手で難しいテーマも解り易くお話し下さいました。出席者からは、お二人の次の講演を期待する声が多くありました。是非お願いしたいと思っています。

○ドイツ語講座・原書講読の受講者の皆さんの翻訳寄稿を分割せず会報別冊としてお届けします。これも会員の皆さんのご希望でした。第3回の原稿も完成しているとの事ですので、次回以降にご期待下さい。

○鎌倉、藤沢の国際交流フェストへの参加は会員のお手伝いを頂き成功裡に終了しました。今後も宜しくお願いします。

○1月31日の年次総会へは多くの会員の出席を頂きたいと願っています。会場でお待ちしております。

(大久保)